

# 橋上オープンカフェ社会実験の評価と都市における回遊行動に与える影響に関する研究 ～大阪市「北新地ガーデンプリッジカフェ社会実験」を対象として～ A Study on Evaluation for the Social Experiment of Open-air Cafe on the Bridge and Effects for the Rambling Activity in the City -A case of "social experiment of Kitashinchi garden bridge cafe" in Osaka city-

都市計画分野 高原一貴

2012年10月に大阪市・中之島ガーデンプリッジで、大阪初の橋上オープンカフェ社会実験が行われた。本研究は、社会実験のプロセス整理、通行量調査・追跡調査、利用者アンケートにより以下の3つのことが明らかになった。①提供内容改善が橋上カフェの質向上のための重要な課題である。②回遊範囲の広がり、ルートシフト、速度の減少、また新たな属性の来訪が見られた。③橋上カフェを肯定的に評価する人が多く、営業季節や曜日、時間帯により異なる属性など利用が見られる。The social experiment of open-air cafe on "Nakanoshima garden bridge" in Osaka city was held in October, 2012, which was the first open-air cafe on bridges in Osaka. I clarified the following three by arranging the process of the social experiment, the investigation of traffic and the follow-up survey, and questionnaire survey. First, the supplementary foods and drinks is an essential problem to make the open-air cafe on the bridge higher quality. Second, the open-air cafe on the bridge causes the expansion of the field and the shift of routes and reducing the speed in pedestrian rambling, and the appearances of new visitors. Finally, people prize the open-air cafe on the bridge, and different kinds of customers come ascribable to when it is held.

## 1. はじめに

### (1) 研究背景・問題意識

近年、公共空間活用の動きが道路空間にまで及んでおり、研究もされている<sup>1)2)</sup>。道路として位置づけられる「橋」は、川と密接な関係があったまちにおいて、憩いの場として機能していた。橋は人々が滞留する空間としてのポテンシャルを持つが、道路であるためイベント等の利用に関する様々な制約が考えられる。

橋上空間の多目的活用を模索するため、2012年10月に大阪市の中の島ガーデンプリッジ(以下中之島GB)で大阪初の橋上空間を活用したオープンカフェ<sup>1)</sup>

(以下橋上カフェ)「北新地ガーデンプリッジカフェ社会実験」(以下GBカフェ)が開催された。橋上を賑わいのある魅力的空間とするために、橋上カフェを評価し、橋上空間活用の課題等を整理する必要がある。

回遊行動の誘発・向上が地域活性化の手法として用いられており、橋上及びその周囲の歩行者回遊行動へ及ぼす影響は、橋上空間活用の一評価指標となり得る。

### (2) 研究目的

本研究はGBカフェを対象とし、①全国の橋上カフェの事例調査により対象を位置づけし、社会実験プロセスから橋上カフェの恒常的開催に向けた課題等を整理する②橋上カフェが中之島GB上、及びその周辺に

与える影響として、通行量調査と追跡調査により人々の回遊行動<sup>2)</sup>の変化を明らかにする。③利用者アンケート調査から橋上カフェの評価や、属性等による評価の相違等について明らかにすることを目的とする。

以下に研究の流れを図示する(図1)。

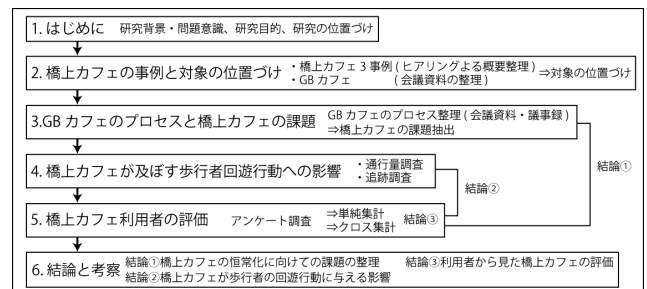


図1 研究のフロー図

### (3) 研究の位置づけ

本研究に関連する研究として、公共空間活用に関する研究、回遊行動に関する研究が挙げられる。

公共空間の活用に関する研究は、本研究と同じくオープンカフェを扱ったもの多く、成立条件<sup>1)~3)</sup>や賑わい等の評価<sup>4)5)</sup>、欧米諸国における法制度<sup>6)7)</sup>に触れたものが挙げられる。本研究は、橋という新たな公共空間活用における課題の抽出や評価を行う。

回遊行動に関する研究は、歩行実験によるもの<sup>8)</sup>、追跡調査によるもの<sup>9)~10)</sup>、アンケート調査によるもの

1)が挙げられる。本研究では、通行量調査と追跡調査の二つの調査により、公共空間活用がその空間だけでなく、周囲の回遊行動に及ぼす影響を明らかにする。

## 2. 橋上カフェの事例と対象の位置づけ

中之島 GB は幅員 (20~25m) の歩行者専用橋であり、比較的交通量の多い御堂筋・四ツ橋筋の間に位置する。さらに南にはオフィスビル等が林立し、北には高級飲食街として有名な北新地が位置するという立地から、普段から人通りが多く、恒常的な賑わいを創出することが出来る可能性が高い(図 2)。

また GB カフェは、大阪で毎年恒例となっている「水都大阪フェス 2012」と同時期に開催され、水都フェスのメイン会場は御堂筋を越えたすぐ東側に位置する。



図 2 中之島 GB 周辺地図

全国における橋上カフェの事例を整理する。2009年4月1日~2012年3月31日において、「橋」「カフェ」、また「橋」「ビアガーデン」のキーワードで、朝日新聞の見出し検索を行い、検索結果の中から橋上で開催されているものを抽出した。3つの事例が抽出され、GBカフェを加えた計4つの橋上カフェの各概要を表にまとめる(表1)。中之島 GB は場の賑わいや、地域活性化に加え、新たな公共空間活用の場としての「橋」に着目し、今後多目的活用をしていく上での、現状における問題点や課題を模索するということを目的に掲げた社会実験であるという点が、他の事例と大きく異なっている。さらに、地元、企業、行政(管理者等)、大学、コンサルタントといった多様な主体が参画し(図3)、異なる観点からの指摘、意見交換が出来るというメリットがある。また、大阪で初の試みのため、警察等からの指示が他の事例と比較してかなり厳しい。

表 1 橋上カフェ事例の概要

実施地域	橋上カフェ事例	橋上カフェ事例	橋上カフェ事例	
実施場所	橋上幅員 10m	橋上幅員 40m	橋上幅員 約10m/60m	
道路形式	歩行者専用	歩者分離+一部公園化	歩行者専用/歩者分離+広場	
カフェ利用エリア	橋上エリア	橋上エリア	橋上エリア	
背景・目的	近年泉源川温泉の観光客はホテル内に留まり、市街地が閑散化。まちの活性化を図るため、歩行者ネットワーク基本計画を策定、新たな橋が建設。その橋上でビアガーデンを開催し、観光客がまちなかに出る場の提供、会場での足運送を促進し、温泉地の回遊性向上を図り、会場でビールを飲め、別の店に足を運んでもらうことが大きな狙い。	北九州市が、栄川を200万都市圏にふさわしい北九州の顔とするべく「栄川マイタウン・マリナ-整備事業」提案。水辺を生かした市街地再開発事業や、河畔レストラン等が整備され、「栄川マイタウンの会」等のまちづくり団体を中心に、「栄川マイタウンの会」等のまちづくり団体を中心に、オーブンカフェを含む四季折々のイベントが行われてきた。また、勝山橋の一部を「都市公園」とし位置づけ、まちづくりイベント等に活用している。	「和歌山の魅力」市民提案実施事業「できたことをきっかけに、衰退するふらり丁の活性化を目指し、和歌山大学の足立基浩研究室が、大学生による「カフェWith」を結成。オーブンカフェ事業をふらり丁商店街で行うという事業を開始。ふらり丁にかつての賑わいを取り戻すべく、滞留性と回遊性の向上を目的としている。	大阪府大阪市北区中之島「中之島ガーデンブリッジ」は、賑わいが期待できる空間であるが、橋上空間の活用には様々な制限がある。公共空間の多目的活用について検証し、賑わい利用の可能性を追求、恒常的な賑わいの形成を目指す。本橋上においてオーブンカフェを実施し、アンケート調査等による効果検証を行う社会実験が開始された。
実施体制	地域の有志で組織された「泉源川温泉ふれあい橋橋上イベント実行委員会」が企画・運営。	中心市街地活性化のために「市民体」で立ち上げられた「栄川マイタウンの会」が中心となり、地元、企業、まちづくり団体、行政等(公園等の管理者は除く)により実行委員会を結成。	足立基浩研究室の学生(主に2回~4回)やその他の有志の学生が「カフェWith」のメンバーとして、カフェや各種イベントの企画・運営・広報など全てを行っている。	地元町会、企業、行政、大学で構成される「北新地ガーデンブリッジ」実行委員会が中心となり、社会実験の検証事業として「コンサタント」が加わっている。
営業期間	H23年10日間(8月12日~8月21日)	H23年6日間(10月の土日)	H23年7日間(11月~12月の週末等)	
営業時間	17:00~21:30	11:00~17:00	土曜:11:00~18:00 日曜:11:00~14:00	
カフェの設置物	販売スペース: ログハウス、テント 飲食スペース: テーブル、イス	販売スペース: テント、ステージ、販売車 飲食スペース: テーブル、イス、パソソル	販売スペース: テント 飲食スペース: テーブル、イスなど	販売スペース: テント、販売車 飲食スペース: テーブル、イス、パソソル
カフェ出店者	実行委員会自身が出店し、専従アルバイト3~5名が営業。実行委員会協力が、イベント、会場内の警備、準備、片付けを中心に手伝う。	「kokura open cafe project」参加店舗から、立候補制で選出された。候補者から「世話人(地域のカフェ店等)から構成される」が選定。	カフェWithに所属している学生が4つ程度のグループに分かれ、週ごとに各グループがボランティアにより営業を行う。	一般公募の中から、実行委員会が選定した公募事業者(2店舗)と実行委員会からの出店者(1店舗)の3店舗で営業。
カフェ販売物	アルコール、ソフトドリンク、おつまみ等は有。おつまみ等は出店者が用意する。アルコールは電話注文するという仕組み。	販売される飲食物は、出店者に一任。アルコール類に関しては、特に警察等からの指導はなく販売可能。	カフェWithの学生が、グループで考案したメニューを提供。地元の店にメニューを安く提供してもらうこともあり、アルコール販売も可能。	出店者に一任(橋上での飲食を前提とした販売物。消費者が購入しやすい価格を条件として)。アルコール販売はなし。
カフェ以外のプログラム	音楽ライブ、大演奏、花火、また子供向けの緑日を開催するなど、家族で楽しめるような企画も取り入れている。	カフェ開催時に各種テーマコラボ(「雑貨」「地産地消」「音楽」といった産地まわりの要素を取り入れる)。	音楽コンサートや、バルーンアート、手品、コスプレショー等、各グループが考案したイベントを、週ごとに開催。	アート展示や映像展示、橋周辺の日替わり音楽イベント、橋に関するトークショーを開催。
インフラ等	橋上に電気、水道は常設されていないため、イベント実施ごとに電気、水道を仮設で引込。	上下水道、電気設備ともに5mごとにビルドインされている。実行委員会の負担で、利用分を支払う。	雑貨橋では、周辺店舗に有料で電気や水道を借り、カフェを営業。京橋では、周辺空き店舗を有料で利用(電気はビルドインされている)。	上下は各出店者が用意、排水は「ANA」の排水設備を利用。電気は付近で建設工事中の「大林組」が地域貢献活動の一環として無償提供。
必要な申請許可	・道路使用許可(警察) ・道路占用許可(市)	・公園の占用許可(市) ・道路占用許可(市)	・道路使用許可(警察) ・道路占用許可(市) ・公園の占用許可(市)	
警備	当初は有料警備員2名を配置。平成23年度からは無事故で安全なイベントとして定着し、有料警備員の配置は不要(実行委員会が警備)。	公園としての位置づけのため、警備員の配置に関する協議は必要がない。	警備員の配置は行っておらず、警察からの指導も特になし。	有料警備員2名、カフェ事業者、検証事業者、実行委員会からの数名が担当。日・時間別、音のレベルに応じた警備方法を考案。
警察等からの指示	・開催区域を看板で周知 ・歩行者の確保(3m) ・歩行者の落下防止のため、橋の欄干より1m手前、チェーンロープ等で区切る ・有料の警備員を2名配置(⇒H23からは安全性が認められ不要となった。) ・夜間の会場の照度確保 ・雑踏対策(誘導や中止野判断)	橋上の一部を都市公園と位置づけられる代わりに、以下のことを義務づけられている。 ・公園名の表示(勝山公園と明示) ・道路区域との境界を明示するフラワーボックス等の配置	雑貨橋でオープンカフェを開催する際には、歩行者の確保が義務づけられている。しかし、その他のことや、交通プログラムにおける利用の制限は受けていない。	・橋の両側4mの区間のみ可歩 ・歩行者確保12m確保、フラワーボックス等がカフェ区域と分離 ・橋上のアルコール販売は不可 ・日、時間ごとに合わせた警備体制を配備 ・営業終了後は、パソソル等のカフェ設備を収納 ・避難器具、救命具を準備 ・特異時等の雑踏対策(入場制限など)

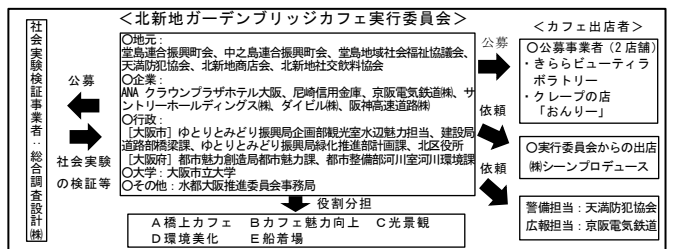


図 3 GB カフェ実施体制

## 3. GB カフェのプロセスと橋上カフェの課題

社会実験の立ち上げから社会実験実施までにおける計4回の北新地ガーデンブリッジカフェ実行委員会での議論等を整理する(表2)。

安全性の確保が第一であり、橋上からの落下や、立ち止りが発生する可能性を避け、アルコール販売や音楽イベント禁止等の制約がかかり、実施に至るまでにいくつかの変更点や、実施できないことがあった。

また、これらのプロセスから、恒常的な橋上カフェ営業に向けての課題を抽出した(表3)。橋上カフェの課

表2 社会実験プロセス(青字:決定事項、赤字:禁止事項や課題等)

実施年月日	第一回実行委員会(8月10日)	第二回実行委員会(9月10日)	第三回実行委員会(10月4日)
実行委員会	・北新地ガーデンブリッジ実行委員会の立ち上げ ・19名(地域、企業、行政、大学) ※中之島地区の参加の必要性を委員の選出 ※立地・経緯・人数等から判断	・第一回実行委員会(8月10日)実行委員会への名称変更 ・3名追加(計22名)	
実施体制	・A~Eプログラムへの役割分担	・社会実験検証事業者の公募	・検証事業者(コンサルタント)の決定・着席
営業期間	・2012/10/13(土)~21日(日)期間 ※水曜フェスの恒常営業	・11:00~21:00	
営業場所	・中之島GB橋上	・中之島GB橋上 ・堂島公園(アルコール販売のみ)	・中之島GB橋上 ※アルコール販売なしのため変更 ※堂島公園のイベント必要タープ敷き配置場所の決定
カフェの設え	・橋上の規制4m以内の範囲を利用 ・パノール、イス、テーブルの設置	・橋中央12mの通行帯を確保し、上下歩道高欄が4mを利用 ・出店形式をパノール+αの考案 ※橋上での通行帯は不可	
出店者	・事業者の公募を検討 ・地元と事業者の半々で営業するという選択肢も	・出店者募集要項、チラシの完成 ・公募の数に応じて委員会からの出店も考慮 ※短期間で大きな利益は見込めないため、公募者が出るか不明	・実行委員会からの出店者の決定 ・計3店舗で営業
カフェ販売物	・昼:コーヒー等、夜:アルコール等	・橋上でのアルコール販売は禁止	・全店舗のメニュー決定(堂島公園でのアルコール販売もしい)
利用場所	・中之島ガーデンブリッジ	・中之島ガーデンブリッジ橋上 ・堂島公園	・中之島ガーデンブリッジ橋上
スケジュール		・プログラムスケジュール(案)	・プログラムスケジュールの決定
アート・展示	・アート展示	・アート展示(ミニバレー橋上) ・橋の映像や写真の展示(橋上)	・大阪の風景や橋の映像展示
音楽ライブ	・橋上ミニライブ(橋上) ・ライブ、マーチングバンド(堂島公園・大江橋駅コンコース)	・ライブ、ライブ音楽家 ・クラシックコンサート ・ブラスバンド ・ライブコンサート ・(全て堂島公園 暫コンコースで開催) ※橋から見づらい、聞こえづらい	
トークショー	・トークイベント	・橋や都市についてのトークショー(橋上)	
ライトアップ	・ライトアップの運動 ・エンターテインメント映像(阪神高速街の夜景)	・統一感のあるライトアップ ・阪神高速街のライトアップは禁止	・ライトアップ方法の検討(01ハルサール橋) ※夜間にパノールが見えらるよう配慮
インフラ設備等	・議論が未定 ※水抜き用の排水栓がない	・上水・各事業者の持ち込み ・排水:ANAの施設を利用	
警備	・橋のレベルに合わせて警備を強化	・警備配置パターンの考案 ※時間帯、イベントの有無で強化 ・警察への対応の必要性 ・高層が警備の必要性	・警備体制、担当の決定 ・警察への対応策の決定 ・風向対策の決定
その他	・橋上のフェンスが景観に悪い ・船着場を検討(将来的に)	・橋上のフェンスはそのまま ・船着場プログラムで将来的に計 ・喫煙席設置の検討 ・橋上空間開放の必要性 ・ゴミの増量の問題	・橋上での喫煙スペースとして有効活用 ・ANAへ提案
委員会までの資料集での課題等	・五通量(4月20日) ・安全性が最も重要な課題 ・橋上の一部公園化→将来的な管 ・規制緩和、社会実験→府営と協 ・道路使用 ⇒入替制限、一方通行化等の対応 五通量(8月8日) ・緊急時の避難経路としての必要量 数の根拠が必要 ・通常時、特異時の警備等を検討 カフェの活性化 ⇒道路利用に関する将来的な民間 との区分整理の整理 ・道路管理者としての見解が必要 ⇒踏査と相談	・五通量(8月24日) ・民間企業に対する道路利用上 り整理(屋上広告物等) ・堂島公園と一体的活用を推進 ・警察、経路対策の詳細検討 ・アルコール提供に対する課題整理 ・カフェ設備(パノール等)の収納 五通量(8月24日) ・道路管理者の判断→実施しても ・道路上でアルコール販売は原則 ・音楽イベント→周辺理解 ・警備に対する警備対策 ・要人対策(橋上利用の在り方) 五通量(8月24日) ・収納スペース(仮囲い)の活用 ・具体的な警備計画(役割分担、 よる配置計画) ・カフェ以外のプログラム内容の 詳細	

題としては、【空間】【実施期間】【提供内容】【管理・運営】の4つに関することが挙げられ、これらのクリアには安全性の確保が最重要課題である。

表3 橋上カフェの課題

空間に関する課題	・橋上横断の回避 ・インフラ設備等のハード整備 ・景観上における橋上の仮囲いの撤去
実施期間に関する課題	・短期間では大きな利益は見込めない ・長期営業の必要性
提供内容に関する課題	橋上での ・アルコール類販売 ・音楽イベント ・橋上でのライトアップ演出(阪神高速街下のライトアップ) ・橋上でのパフォーマンス ⇒橋上での立ち止り、雑踏の際の対応、安全性の確保
管理・運営に関する課題	・恒常的利用におけるより高い安全性への配慮 ・公園化した場合の管理方法(利用の制限など) ・道路利用上の民間事業者との区分根拠の整理(他の橋梁との数値的区分) ・要人対策

#### 4. 橋上カフェが及ぼす歩行者回遊行動への影響

##### (1) 通行量調査

通行量調査を以下の要領で行った(表4)。

表4 通行量調査概要

調査日	【カフェなし】 2012/10/9(火)、10/6(土)	【カフェあり】 2012/10/19(金)、10/20(土)
調査時間	11:00~21:00で計測。ただし、1時間ごとに時間帯を区切り、各時間帯の00分~20分の間のみ計測を行う。計測値の3倍をその時間帯の通行量とする。	
調査対象範囲	中之島ガーデンブリッジ、渡辺橋、大江橋の各北詰と南詰の計6カ所で計測。	
計測対象	各計測地点で方向別、男女別で歩行者を計測する。歩行者には、車いすを含むが、ベビーカーに寄せられた幼児等は除く。	

カフェの有無による通行量の変化を把握するために、「通行量増加比」を定義・算出し、その結果を図示した(図4)。平日・休日ともに中之島GB上の通行量が増加しており、特に休日では3倍以上増加している。中之島GBの横を素通りするという流動が、中之島GB経由の流動へとシフトし、隣接する二橋からの進入量も大きく増加している。

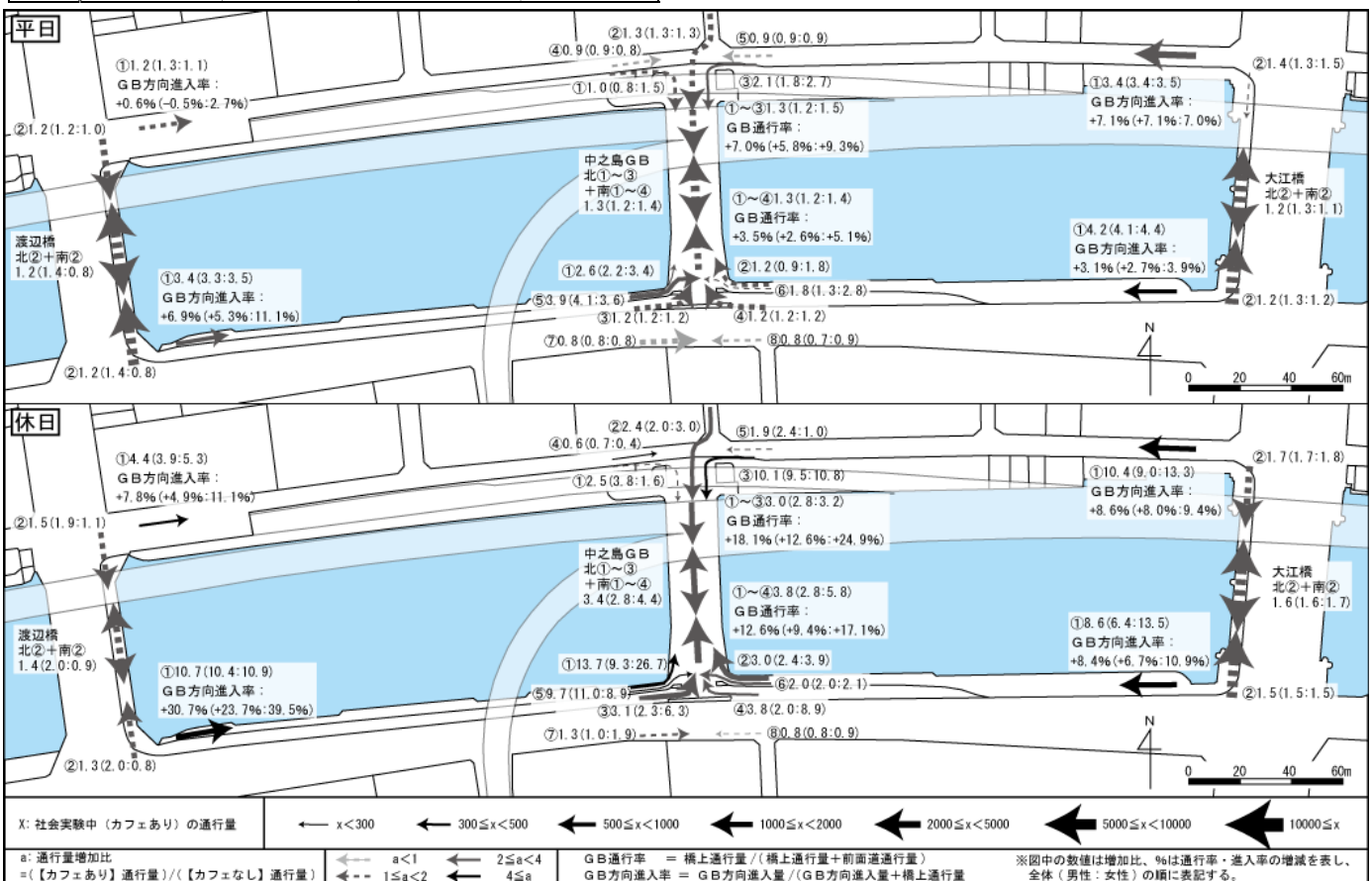


図4 カフェの有無による通行量変化



## (2) 追跡調査

次に、追跡調査を以下の要領で行った(表5)。

表5 追跡調査概要

調査日	【カフェなし】2012/10/5(金)、10/07(日) 【カフェあり】2012/10/14(日)~10/21(日) ※【カフェなし】【カフェあり】の平日・休日各4期間で60サンプルずつ収集
調査時間	I: 11:00~14:00 II: 14:30~17:30 III: 18:00~21:00 (20サンプルずつ収集)
調査対象範囲	東西を御堂筋・四ツ橋筋、南北を北新地大通り・王佐堀通りに囲まれた範囲(図5の赤破線内)
追跡対象	2人以上のグループ
追跡方法	開始条件
	終了条件

橋上カフェの有無が、中之島GB周辺の回遊ルートに与える影響を明らかにするために、「通行比」を定義し、通過の見られた街路に対して算出を行い、結果を図示する(図5)。橋上カフェ出現により、中之島GBからの人々の回遊範囲が広まり、南北方向が主流であった歩行者の流れに対し、東西方向(川沿い)の流れがよく見られるようになった。

また、橋上カフェの有無が属性、目的地、回遊速度、滞留時間に与える影響を把握する(表6)。橋上カフェの出現により、橋を通行する人の属性、目的地に影響し、目的地のないグループの急増、回遊速度の低下、滞留時間の増加が見られた。また、分散分析の結果、回遊速度は属性で異なり、カフェあり時には目的地による違いも見られ、滞留時間は平日のカフェあり時のみ属性による違いが見られた。

表6 カフェの有無による回遊速度・滞留時間の変化

	平日(左:カフェなし時の値 右:カフェあり時の値)				休日(左:カフェなし時の値 右:カフェあり時の値)											
	N(人)	割合(%)	平均回遊速度(m/s)	平均滞留時間(s)	N(人)	割合(%)	平均回遊速度(m/s)	平均滞留時間(s)								
全体	60	60	1.28	0.96	1.58	19.33	60	60	1.24	0.89	1.70	25.33				
時間	20	20	33.3	1.27	1.00	11.15	20	20	33.3	1.22	0.90	2.50	32.65			
帯	20	20	33.3	1.33	0.94	0.00	28.35	20	20	33.3	1.23	0.89	2.60	16.90		
帯	20	20	33.3	1.24	0.93	3.75	18.50	20	20	33.3	1.26	0.89	0.00	26.45		
属性	23	16	38.3	2.67	1.41	1.21	0.87	0.63	24	8	40.0	13.3	1.37	1.01	0.42	26.50
属性	14	22	23.3	3.67	1.15	0.86	0.00	38.00	10	18	16.7	30.0	1.05	0.87	2.70	25.61
属性	23	18	38.3	3.00	1.22	0.88	3.26	10.50	26	27	43.3	45.0	1.20	0.88	2.50	28.63
属性	0	4	0.0	6.7	-	0.85	-	31.25	0	7	0.0	11.7	-	0.87	-	10.57
目的地	22	11	36.7	18.3	1.32	1.14	0.00	2.55	5	1	8.3	1.7	1.38	1.05	2.00	110.00
目的地	9	6	15.0	10.0	1.21	1.11	0.00	0.00	6	3	10.0	5.0	1.19	1.08	3.33	0.00
目的地	20	11	33.3	18.3	1.24	0.97	4.75	26.55	32	13	53.3	21.7	1.25	0.84	1.41	28.85
目的地	5	1	8.3	1.7	1.39	1.22	0.00	0.00	13	2	21.7	3.3	1.25	0.83	0.00	10.00
目的地	2	27	3.3	45.0	1.19	0.87	0.00	20.81	3	36	5.0	60.0	1.05	0.90	9.00	27.78
目的地	2	4	3.3	6.7	1.24	0.74	1.00	69.50	1	5	1.7	8.3	0.97	0.84	0.00	3.00

## 5. 橋上カフェ利用者の評価

社会実験中(2012年10月13日~21日)に飲食物を購入し、着席した人を対象にアンケートを行なった。

### (1) 単純集計

アンケート内容、及び単純集計した結果を表にまとめる(表7)。女性客や20代~40代の比較的若い年齢層の利用が多く、平日では仕事の合間や仕事帰りにおける短時間の利用、休日では初めて中之島GBにやってくる家族連れやカップルが、水都フェスの前後に来店し、比較的長時間の利用がメインである。カフェ目的の人は全体の3割程度と少なく、たまたま通りかかった人が多い。「賑わい」「店舗数」「飲食内容」の評価を除くとカフェの評価は全体的に高く、再来の有無についても肯定的な意見が多い。営業希望は、「春」「秋」「昼」「夕方」の希望が多く、平日客は「平日」、休日客は「休日」の営業希望が多い。

表7 アンケート結果のまとめ(単純集計)

アンケート項目	平日(275人)	休日(480人)
属性	性別	女性18割
	年齢	20代「30代」「40代」各2~3割
	住まい	「大阪市内」4割以上、「大阪府内」7~8割
	職業	「会社員・公務員」6割、「学生」5%
立寄目的	「カフェ」3割、「仕事」「水都フェス」各2割	
情報源(複数回答)	「たまたま通りかかった」3割、「テレビ・ラジオ」「チラシ」各2割	
カフェ利用前後の行動(場所)	「職場」「バイト先」3割	
行動(場所)	「帰宅」4割、「職場」「バイト先」3割	
通行頻度	「初めて」「今まで1~3回」「週1以上」各3割	
GBの認知度(初めて通った人のみ)	「知らなかった」7割	
同行者	関係	「会社の同僚」「友人知人」各4割
	人数(本人含む)	「一人」「二人」各4割
滞在予定時間	「30分未満」4割、「30分~1時間」4~5割	
カフェの評価	場所の楽しさ	「とても感じる」2~3割、「感じる」6割
	賑わい感	「感じる」3割、「感じない」6割
	居心地・快適さ	「とても感じる」3割、「感じる」6割
	水辺への親しみ	「とても感じる」3~4割、「感じる」6割
	まちなみの雰囲気	「とても好き」3~4割、「好き」6~7割
	橋からの風景	「とても好き」4割、「好き」6割
	店舗数	「満足」2割、「やや不満」6割
座席数	「とても満足」2割、「やや満足」6割	
飲食内容	「やや満足」「やや不満」各4割	
価格設定	「やや満足」「やや不満」2割	
再来の有無	評価	「思う」「イベント等があれば来たいと思う」各4~5割
上記の理由	良い意見	アクセシビリティ、居心地、雰囲気等に関して
	悪い意見	提供品(アルコールがない)、立地(家から遠い、この付近にない)等に関して
営業希望日時(複数回答)	季節	「春」「秋」各9割、「夏」5割、「冬」2割(「年中」2割を含む)
	曜日	「平日」9割、「休日」5割
	時間帯	「昼」「夕方」7割、「夜」5割、「朝」2割
カフェ希望公共空間	「公園」7割、「駅前広場」3割、「道路」2割	

### (2) 属性に関わる項目間の関係

また、アンケート項目の属性に関わる項目間においてクロス集計を行った結果、いくつかの関係性が見られた(表8)。若い人は彼氏・彼女と、年配の人は家族、一人で来る人が多く、カフェ目的の人は平日は一人で、休日は家族と来る人が多い。中之島GBを初めて通る人は橋上カフェや水都フェス目的の人、家族や彼氏・彼女と来る人が多い。

表8 アンケートによる属性間の関係

	平日	休日
【性別・年齢】と【立寄目的】	-	-
【性別・年齢】と【通行頻度】	-	-
【性別・年齢】と【同行者】	男女ともに「一人」での来店が年齢が高くなるに連れて多い	男女ともに「家族」と来る人が年齢が高くなるに連れて多い(★★)
【立寄目的】と【通行頻度】	「仕事」で来た人は「ほぼ毎日通る」が多い その他の目的では、「初めて通る」が多い 通行頻度が高いと「仕事」目的の人が多い 「初めて通った人は「水都」「カフェ」目的が多い	-
【立寄目的】と【同行者】	「仕事」目的の人は「一人」「会社の同僚」が多い 「水都」目的の人は「一人」「家族」が多い 「カフェ」目的の人は「一人」「友人・知人」が多い 「家族」で来た人は「水都」目的が多く「カフェ」目的が少ない	「仕事」で来た人は「一人」が多い それ以外の目的では「家族」と来た人が多い 「会社」で来た人は「水都」目的の人が多い その他の同行者では「水都」目的の人が多い
【通行頻度】と【同行者】	通行頻度が高いと「会社の同僚」と来る人が多く、「家族」「友人・知人」と来る人が少なくなる 「家族」「友人・知人」「彼氏・彼女」と来る人は「初めて通る」人が多い	通行頻度が高いと「友人・知人」「彼氏・彼女」と来る人が少なくなる 「家族」「友人・知人」で来た人は「初めて通る」人が多い 「会社の同僚」と来た人は他の同行者よりも「ほぼ毎日通る」人が多い

・5%以下で有意差 \*\*1%以下で有意差 -有意差なし

### (3) 属性等と橋上カフェの評価との関係

さらに、属性に関わる4項目と、橋上カフェの評価に関わる4項目間でクロス集計を行った(表9)。仕事目的の人は短時間の利用、カフェ目的の人や友人・知人と来た人は比較的長時間の利用が見られた。カフェの評価項目は、属性等による違いはほぼ見られないが、再来の有無に関しては、若い男性や女性、カフェ目的の人は比較的肯定的な意見が多い。営業希望時間は、季節に関しては、カフェ・水都フェスを目的として来た人は秋の営業希望が高く、彼氏・彼女と来た人は冬の営業希望が高い。曜日に関しては、仕事で来た人、通行頻度が高い人、会社の同僚と来た人のような、仕事関連の利用者は平日での営業希望が高く、橋上カフェや水都フェスを目的として来る人は休日での営業希望が高い。時間帯に関しては、朝の営業は若い男性に多く、夜の営業は比較的若い層や彼氏・彼女と来る人からの要望が多い。

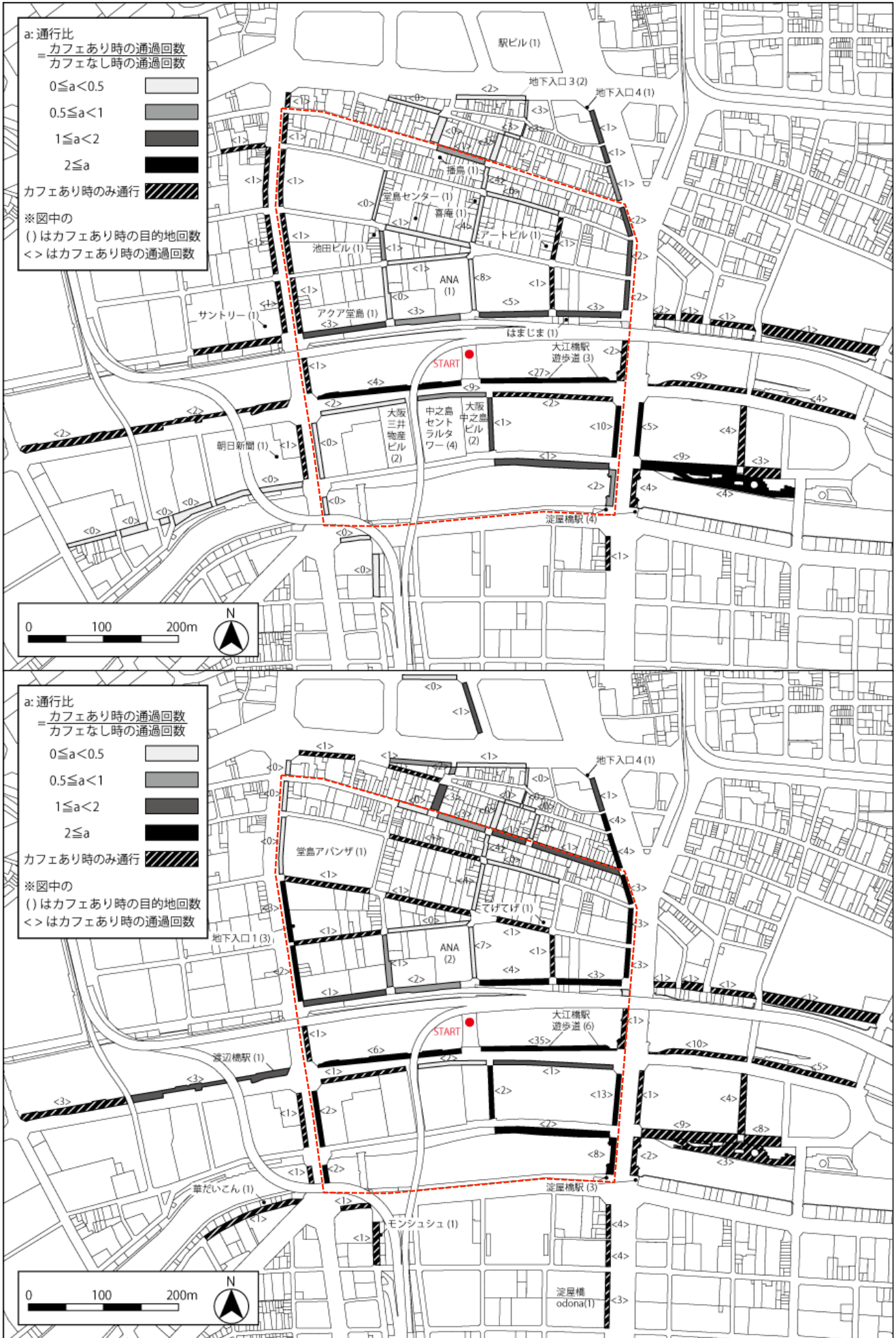


図5 街路ごとの通行比の結果(上:平日比較、下:休日比較)

表9 属性と橋上カフェの評価との関係

		性別・年齢	立寄目的	通行頻度	同行者
滞在予定時間	平日		「仕事」⇒ 短時間 「カフェ」⇒ 長時間		「友人・知人」⇒ 長時間 「友人・知人」⇒ 会社の同僚」⇒ 長時間
	休日				
カフェの評価	空間系	平日			
	景観系	平日		「初めて」⇒ 低評価 「道」⇒ 高評価	「家族」⇒ 低評価 「一人」⇒ 高評価
	休日				
	カフェ内容系	平日			「会社の同僚」⇒ 低評価
再来の有無	平日				
	休日	「男性⇒29歳」「女性」⇒「思う」「イベント次第」が多い	「カフェ」⇒「思う」が多い 「仕事」「水都」⇒「イベント次第」が多		
営業希望日時	季節	春			
		平日			
		休日			
		夏			
		平日			
		休日	「男性」⇒ 高い		
	秋				
	平日		「水都フェス」「カフェ」目的なし		
	休日		「仕事」⇒ 低い		
	冬				
	平日			「通行頻度が高い」⇒ 高い	「後氏・彼女」⇒ 高い
	休日				
年中					
平日			「目的なし」⇒ 高い		
休日					
曜日	平日				
休日			「仕事」⇒ 高い	「ほぼ毎日通る」⇒ 高い	「会社の同僚」⇒ 高い
平日			「水都フェス」「カフェ」⇒ 高い	「通行頻度が高い」⇒ 低い	「後氏・彼女」⇒ 高い
休日				「ほぼ毎日通る」⇒ 低い	「会社の同僚」⇒ 低い
平日					
休日					
朝					
平日					
休日					
昼					
平日					
休日					
夕					
平日					
休日					
夜					
平日					
休日			「若い男性」「若い女性」⇒ 高い	「目的なし」⇒ 低い	「ほぼ毎日通る」⇒ 高い 「後氏・彼女」⇒ 高い 「家族」⇒ 低い

\* 5%以下で有意差 \*\* 1%以下で有意差 - 有意差なし

## 6. 結論と考察

本研究では、以下の3つのことが明らかになった。

### 【橋上カフェの恒常化に向けての課題の整理】

本社会実験実施に至るまで、橋上活用に関する制約により、断念せざるを得ない事項が存在した。橋上カフェ実現の課題は、【空間】【実施期間】【提供内容】【管理・運営】に関するものがあり、【提供内容】に関する課題は、アンケート結果からも分かるように、アルコール類の販売や橋上でのカフェ以外魅力向上イベントが、橋上カフェの質を高める上で大きな課題である。イベント等による道路使用許可は、他の道路等で同様の要望が出た際の対応が難しいため困難であり、これらの課題をクリアするには安全性の確保が必要である。

### 【橋上カフェが歩行者の回遊行動に与える影響】

橋上カフェの出現により、橋上空間だけでなく、その周囲の歩行者回遊行動にも影響を与えることが分かった。橋上カフェは、アンケートで「たまたま通りかかった」という人が多いことから分かるように、隣接する橋梁や川沿い道路からの視認性が高いため、何も知らずに付近を偶然通りかかった人の目にも留まりやすく、高い集客性が期待できる。また、橋上カフェや水都フェス目的の人は、普段見られない家族連れやカップルが多く、初めて中之島GBを通行した人も多いことから、新たな属性の来訪や中之島GBの認知にも大きく役立っている。また、アンケートのカフェ利用前後の行動からも分かるように、御堂筋で分断されがちであった東西方向の人の流れに、GBカフェと水都大阪フェスとの人の行き来によるつながりが生まれた。回遊速度の低下や目的地のないグループの急増から、橋上カフェを中心とした一体空間に、ゆったりとした人の流れが生まれ、景色を眺めながらぶらぶら歩く人が出現していることが伺える。

### 【利用者から見た橋上カフェの評価】

橋上カフェ利用者は、若い年齢層や女性客が多く、

カフェ目的で来た人は少ない方だが、属性等に関わらず評価は高かった。「賑わい」「店舗数」「飲食内容」に関する評価が低かったが、自由筆記から賑わいが少ないゆえに、ゆっくりとくつろげる静かな空間を提供できている。「店舗数」「飲食内容」に関しては今後の課題でもあり、特にアルコール類の販売が求められている。属性等によってカフェ営業希望日時が異なり、若い世代、中之島GBをよく通る人、カップルは冬・夜といった比較的要望が低い時でも営業希望が高く、カフェを営業する季節、曜日、時間帯により、異なる属性や利用パターンが見られることが考えられる。

## 7. まとめと考察

中之島GBは、恒常的賑わいを創出できるポテンシャルが高く、このような空間における橋上カフェの営業は、大阪、さらには全国における代表的な事例となり得る。社会実験として「橋」という道路空間で、何が可能であり、何が問題・課題であるのかを抽出できたことに、本社会実験には大きな意義がある。また、利用者アンケートから橋上カフェを肯定的に捉えている人が多く、提供内容等の改善によっては、より高い評価を得ることができる。さらに、橋上カフェはその場だけでなく、周囲の人々の回遊行動にも影響を与えていることから、都市を活性化させる一つのツールとして機能する可能性を持っている。

### ■補注

- (1) 本研究では、橋上でテーブル、イス、パラソル等を設置し、飲食・休憩ができる空間のことをオープンカフェと呼ぶ。
- (2) 人がある地域を、目的の有無に関わらず、滞在したり、歩き回ったりする行動

### ■参考文献

- 1) 渡辺ら(2000)、「街路空間のオープンカフェ利用の試みに関する研究-広島市平和通り、横浜市鶴見西口の事例を通して-」、日本都市計画学会都市計画論文集、pp.1105-1110
- 2) 渡辺ら(2001)、「中心市街地の賑わい創出を目的とした公共空間利用実験-千葉市「都市景観市民フォーラム」を事例に-」、日本都市計画学会都市計画論文集、pp.793-798
- 3) 山本ら(2007)、「街路空間の賑わい創出の手法としてのオープンカフェとその評価に関する研究-三宮中央通りと有馬温泉・湯本坂における社会実験事例の分析を通して-」、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.517-518
- 4) 藤本ら(2008)、「公共空間を利用したオープンカフェの利用実態と住民意識に関する研究-広島市京橋川河岸のケーススタディ-」、日本都市計画学会都市計画論文集、pp.619-624
- 5) 秋山ら(2007)、「中心市街地活性化事業としてのオープンカフェの効果に関する調査・分析-国土交通省社会実験・オープンカフェ事業事例の分析を通して-」、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.141-142
- 6) 加藤ら(2000)、「欧米における街路空間の公共利用制度に関する研究-6都市のオープンカフェ運営を事例に-」、日本建築学会計画系論文集、第530号、pp.185-192
- 7) エルフアディング(2003)、「ドイツにおけるオープンカフェの法制度とその運用に関する研究-15都市を事例に-」、日本建築学会計画系論文集、第566号、pp.97-104
- 8) 水野ら(2010)、「ユビキタス技術を利用した情報提供によるイベント時の歩行回遊性に関する研究-御茶ノ水茗溪通り商店街における実証実験を事例として-」、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1065-1066
- 9) 朴ら(2006)、「中心市街地における都市空間構成と歩行者回遊行動に関する研究-歩行者追跡調査結果と回遊単位概念を用いて-」、日本建築学会計画系論文集、第605号、pp.143-150
- 10) 高橋ら(2005)、「商業集積地における来訪者の回遊行動と店舗集積密度の関係についての研究」、日本都市計画学会都市計画論文集、pp.649-654
- 11) 荒川ら(2000)、「回遊性による都市空間の解析・まちの発展性に関する研究-和歌山市ぶらくり丁における事例研究-」、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.41-42

## 討議

### 討議 [ 徳尾野徹准教授 ]

本来みんなのものであるという橋の上でカフェを営業し、恒常的なものにしていくためには売上も気にしていかなければならない。公共空間の概念は変わりつつあるが、この論文で扱う公共空間とはどのようなものを想定しているのか。

#### 回答

公共空間は誰もが気軽に利用できる空間である必要があると思うが、空間の管理や、利用者が少ない空間に対してはイベント利用等も、場の有効活用として行うべきであると考えている。本来、場の管理は地元の人達が行う必要があり、場の有効活用は地元権利があると考えている。今回の社会実験でも、実行委員会に地元の人が参画をしており、橋上美化を行うというプログラムもあり、花植えや水やり等の管理・運営を今後どのように行っていくかという話も進めている。カフェ営業に関しても、今回の社会実験では公募事業者に一任しているが、地元の飲食店が橋上に出店するという案も挙がった。つまり、地元が美化などの管理を行い、時にはイベント等により場の魅力を向上させ、外部の人にもその空間を楽しんでもらうというのが、今後の公共空間のあり方であると考えている。

### 討議 [ 内田敬教授 ]

社会実験ということで、多くの主体が関わり、大きな組織となっているが、社会実験検証事業者もいる中で、当人の役割は何か。

#### 回答

地元を含め実行委員会は、橋上カフェをどう実現していくのかということにしか目がなく、そもそも橋上カフェが必要であるのか、また橋上カフェにより都市がどう変容するのかということも重要である。そこで私は、検証事業者と協力してアンケートにより橋上カフェを評価することに加え、独自の視点で、周囲の回遊行動へ及ぼす影響に着目し、橋上カフェが都市に及ぼす影響を明らかにしようと試みた。

### 討議 [ 内田敬 先生 ]

イベントにより回遊性を向上させるとするのは良くあるが、普通は上手く行かない。本研究で工夫した点は何か。

#### 回答

イベントと回遊性を絡めた研究はいくつかあるが、イベントの有無による比較は通行量の変化を言及する

程度に留まっているものばかりである。本研究では、橋上カフェが回遊行動へ影響を与えることを明らかにするために、より詳細な回遊行動を把握できるよう、通行量に加え、回遊速度やルートの変化、また来訪する属性等といった定性的なものなど、多くの回遊行動に関わる項目に着目し、その変化を把握しようと試みた点が工夫した点であると言える。ただし、橋上カフェが回遊性の向上につながっている一番の要因は、隣接する橋からの視認性の高さにあると考える。隣接する二つの橋からの進入が増えていることからそれが裏付けることができ、このような結果は橋上でのイベント活用特有の結果であると考えている。

### 討議 [ 横山俊祐教授 ]

どうやって実現していくのが大事。土地的な人が上手く動かしていく必要がある、警察とのやり取り等が一番重要かもしれない。その辺りをさくっと書いているようだがどう考えているのか。

#### 回答

本研究のメインは橋上カフェの評価と回遊行動への影響であり、梗概ではその辺りを中心にまとめたため、頁数の制限もあるため、ご指摘の内容に関してはさくっと書いてしまっている。徳尾野准教授の質疑への回答と同様に、地元が橋上カフェを管理・運営するのがベストであると考え、そういった中で警察とのやり取りにおける橋上利用の条件等の整理は重要ではある。橋上カフェを実現していく上での課題は、警察協議の議事録により、本論ではより深く言及してはいる。学外における学会への投稿等の際に、修士論文の内容を二つに分けるとすることも考えており、ご指摘の内容はその際に参考にさせていただきたいと思います。

### 討議 [ 横山俊祐教授 ]

他の都市環境（公共空間）におけるイベントというのはたくさんあるが、橋の独自性は何か。

#### 回答

アンケートからも伺えるように、川沿いの見通しが良いため、橋から眺める景色がよく見えるということ。また風通しがいいため涼しく、長時間くつろげる快適な空間が提供できることだと考える。私自身、橋上カフェに張り付いていた感想としては、時間の流れがゆっくりと感じ、かなり居心地がよいという印象でした。せわしなく歩き回る都市の中における、このようなゆっくりくつろげるスペースはかなり貴重であると考え、特に大阪のような川と密接な関係にあったまちにおいて、名物として広まっていくことを期待している。